

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000048		
法人名	医療法人 山仁会		
事業所名	グループホーム メゾン・こもれび		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町北高鍋4775番地		
自己評価作成日	平成27年2月11日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.in/45/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kan=true&kijyouvoCd=4592000048-00&prefCd=45&yearId=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設医療機関があり、医師が24時間対応できる。また、隣接している通所介護の看護師の対応も可能である。法人内には介護老人保健施設・通所介護・通所リハビリテーションがあり、毎月の法人全体の会議では様々な研修を取り入れている。職員による研修(感染・接遇・高齢者虐待防止・認知症ケア・プライバシーの保護)の他に、外部から講師を招き、法令遵守・感染・接遇マナー等の研修を行い、研鑽を重ねている。また、年1回、日々の取り組みや新しい挑戦等の研究発表を行い、ケアの向上に努めている。法人合同の秋祭りが行われ、大きな楽しみの一つになっている。今年度は、同法人内のグループホームメゾン・なでしこ合同のクリスマス会に、家族・地域の方々を招待している。また、隣接している通所介護の音楽療法に毎週参加している。地域との交流を大切に考え、町内・外のボランティアに訪問して頂き、交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、法人の併設医療機関や通所施設などと隣接しており、適切な医療環境にある。また、地域交流が図られ、地域住民との積極的な交流にも取り組んでいる。法人内研修も充実し、「今を大切に、1日を幸せに」の理念の下、管理者、職員は利用者一人ひとりに尊敬の気持ち忘れず、ケアを実践している。職員と利用者は家庭的な雰囲気の中で暮らし、家族との交流も多く、関係が築かれている。ホーム内は利用者が安全に生活できるように、整備、整頓されている。災害対策においても、地域住民の協力の下に対策が立てられている。職員の優しい言葉掛けの中、利用者は穏やかに居心地良く過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員で検討した結果、「今を大切に 1日を幸せに」と継続して掲げている。また、地域密着サービスの理念も共に掲げている。入居者様の一瞬を大切に、1日を幸せな気持ちで過ごして頂けるよう、理念に立ち返っている。	開設当初に全職員で話し合い、「今を大切に、1日を幸せに」を掲げ、職員はその理念が実践につながるよう取り組んでいる。理念は毎年見直しを行っている。地域密着型としての理念も別に掲げ、地域との密な交流も実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや行事に積極的に参加し、地域との付き合いを大切にしている。また、ホームの秋祭り、クリスマス会に地域の方々を招待したり、ボランティアグループに来て頂き、入居者様との交流の場になっている。	地域の夏祭りなどの行事に参加している。ボランティアや中学生、小学生の受け入れを積極的に行っている。法人内の事務主管が自治会の班長を兼ねているため、ホームも日常的に交流を図ることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の研修内容を報告、広報している。また、ホームでの認知症の方の困難事例、支援方法を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ホームの現状、行事、取り組み、災害対策など、広報、意見交換を行っている。今年度より地域代表を増やし、家族代表、行政、同法人内の居宅ケアマネジャーが参加し、意見交換を行っている。また、消防署・警察署の職員にも参加を促している。そこで出された意見をホームの職員に報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議では、地域住民や家族から活発な意見が出されている。防災訓練の検討をする中で、メンバーに警察署や消防署へ協力依頼をするなど、サービスの向上に生かす取組を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ホームの実情を報告、広報している。また、役場にも出向き、アドバイス、相談を行い、協力体制を築いている。今年度は町主催の集団指導に参加している。	介護保険の見直しや事故報告の記載などについて、直接窓口に出向き、相談をするなど、日常的に交流を深め、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症である為、危険であることが理解できず、転倒、転落の危険性がある方、所在確認の必要な方にはセンサーマットを使用している。現在、離設の可能性が高い方が半数いらっしや、玄関、窓に施錠している状態である。毎月の運営会議で検討しながら、解除できるように努めている。	3か月ごとに管理者の法人内部研修を行い、職員研修の年間計画を作成し、抑制しない取組を検討している。離設傾向にある場合については、家族の同意を得て施錠をするなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあり得ないが、毎月の運営会議で職員に呼びかけている。月1回の法人全体会議で法令遵守、接遇、虐待防止に関する研修を行い、虐待、言葉かけを主とした関係法を学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内にポスターを掲示している。現時点において活用事例はない。将来的に必要性が考えられる為、ホームの運営会議等で勉強会を行って、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、家族の疑問や不安な事を伺い、納得、了承を得て、署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族、地域、行政の代表者が出席し、要望や意見を反映できるようにしている。また、面会時に職員、家族、入居者様でゆっくり話し、要望を聞いている。年に1回、家族向けにアンケートと家族会を行い、会では家族だけで話し合う時間を設けている。玄関には意見箱を設置している。	家族には来訪時に意見や要望を聞いている。排便困難な利用者の食事の見直しや薬の調節の相談、足の冷たい利用者への取組など、具体的に話し合い、日常的な関係作りを図り、ケアに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議に経営者と職員が参加し、現状報告や意見交換を行っている。また、そこで出た問題点などを話し合い、提案や意見を反映させている。	毎月の運営会議には理事長と職員が出席し、運営に関する意見交換を行っている。管理者と職員は、意見交換を自由に行える関係で、職員の勤務に関することなどの意見を運営に生かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①職員が生き甲斐を持てる場であること。 ②利用者に幸せを提供出来る能力を持ちたい。 ③努力と実力に対する対価が標準以上であること。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を繰り返す。新人職員には習得度、悩み等のチェックを行い、日常の業務の流れの中で細かく教育する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・外のグループホーム関連の研修会に出席し、知識、情報、悩みの共有を行いながら職員の質にこだわりたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から家族と連絡を取ったり、本人の元を訪問し、状態、要望などの把握に努めている。希望があれば事前にホーム内の雰囲気を見学して頂き、本人様が安心して過ごせるよう早い段階から関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にホームの様子を見て頂き、家族と話し合う場を設け、不安な事や要望等に耳を傾け、親密な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にかかりつけ医の情報や本人、家族からの情報をふまえ、今必要なサービスを検討し、他事業所や家族の協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事、得意とする事、やりがいのある事を見つけ、サポートするように努めている。また、やり遂げた事に対し喜びや生きがいを感じて頂けるように、言葉掛けを行っている。常に尊敬の気持ちを忘れずに、共に過ごす関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会になかなか来れない家族には、電話にて本人の状態を報告し、把握して頂いている。本人が安心して生活できるように、職員と家族が協力し支援している。本人と家族の絆を大切に、より良い関係が築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	頻回に面会に来て頂いたり、外出、外泊を促している。散髪、病院受診、買い物、夕食等、今までの生活習慣を継続できるよう家族と協力し支援している。また、ドライブすることにより、なじみの地域を思い出して頂いている。	地域のなじみの友人などが会いに来ている。家族の来訪も頻回にあり、買い物、夕食、散髪など、なじみの場所へも家族と協力し出掛けている。生活習慣の継続ができるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、理解したうえで、入居者が孤立せず快適に過ごせる関係づくりを行っている。気の合わない入居者同士の口論がみられるが、職員が間に入り、トラブル防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先に面会に行ったり、必要に応じて相談や支援を行っている。サービス終了した方の家族から入居相談を受け、対応した事例がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握し、実現に努めている。入浴の好きな男性入居者様と温泉に行ったり、本人の生活歴を大切に、ホームの畑やプランターで野菜を栽培している。また、家族の協力を得て葬儀参列の支援を行った。	入居前に生活歴の把握を行い、家族や関係者の来訪時にも聞き取りを行うようにしている。利用者一人ひとりに傾聴し、意向を把握できるように努めている。洋裁や畑仕事、お風呂が好きな利用者など、個別の支援に取り組む、家族の通夜への参加の支援も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族、本人と直接会い、生活環境の把握をしている。また、入居後の生活の中での発見も職員間で情報を共有し、支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や習慣、残存機能を把握し、支援に努めている。また、心身状態を常に観察し、全職員で申し送り記録に残し、把握している。その日、その時、その方が何を望んでいるかを理解し、希望に添うことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当職員で話す機会を持ち、希望や要望を聞き取り、介護計画に反映している。計画作成担当者と担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。	それぞれの担当者が、家族の来訪時に利用者と共に希望を聞き、毎月モニタリングを行い、計画作成担当者と話し合い、6か月ごとの見直しを行っている。個別の計画に対応した記録も利用し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添ったケアの実践及びその結果を個別の記入シートに日々記録している。記録は全職員で確認し、毎日のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する事業所の音楽療法等に毎週参加したり、希望に応じた併設医療機関でのリハビリの対応も行っている。また、歯科往診、訪問針治療にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域馴染みの美容院に行ったり、町内の飲食店へ外食に出かけたりしている。月1回の読み聞かせのボランティアや町内・外で活動しているボランティア団体の方々に来て頂くよう支援している。法人内では、実習生の受け入れ交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して頂いている。受診時には情報提供書にて状態を報告し、それぞれのかかりつけ医との関係を築いている。突発的な疾病時にも家族に連絡し、受診を依頼し、受診している。	基本的には家族が受診支援を行い、利用者それぞれのかかりつけ医を継続して受診している。希望によっては、近隣の病院に変更している。歯科医の訪問診療も行われ、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人医師、かかりつけ医師による診察結果を基に、看護・介護が連携して日々の健康管理や医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換を行い、治療計画を話し合っている。また、かかりつけ医への情報提供書や電話での情報交換を行う事で関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・法人医師・職員で話し合い、かかりつけ医にも相談し、方針などを共有している。終末期の方針については、その都度、家族と話し合いを持つ事で、本人の希望・家族の希望に添えるように努めている。また、併設病院にも協力をお願いしている。	重度化した場合には、その都度、家族、関係医療機関、職員と相談し、方針を共有している。法人内の併設医療機関との協力を得、家族の希望に沿える支援に取り組んでいるが、入居時に、説明するための看取りに関する事項等の明文化がなされていない。	看取り等のホームとしての方針を文書化し、入居時に家族に提示するなど、早い段階で家族と職員が共有できるよう取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手順やAEDの取扱い方法、救急法の訓練を行っている。また、吸引器の取扱いの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防機関へ防災訓練の要請を行い、年2回、日中想定・夜間想定での防災訓練を行い、法人職員・地域住民との協力体制を築いている。また、地域住民独自で水害時の訓練も行っている。災害に備え、3日分の食料を準備している。	年2回、日中、夜間を想定した訓練を実施している。地域住民が参加する訓練も実施し、連絡網を作成するなど、地域住民との協力体制も築いている。3日分の水や食料を備蓄し、災害対策を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自尊心を傷つけない言葉掛けを心掛けている。接遇委員会による研修を取り入れ、日常的に全職員で確認し合い、丁寧な言葉使いに心掛けている。また、プライバシーの保護には法人全体で取り組み、実践している。	法人内の年間計画にも接遇の研修が計画されている。職員には運営会議時に周知し、利用者一人ひとりの人格を尊重する言葉掛けを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話や訴えを傾聴し、自己決定を大切にしている。また、訴えがない方でも思いや希望を理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険のない範囲でマイペースで過ごせるように支援している。一人ひとりを尊重し、その方を否定せず、希望に添った支援を行っている。必要があれば付き添い、見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの身だしなみに心掛けている。着たい衣類を選択できる方には選んで頂いている。また、起床後、鏡の前で自分の櫛で整髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用している。行事ごとに献立を工夫し、楽しみなものになるよう心掛けている。料理の味付け・下ごしらえ・つぎ分け・茶碗洗い・お盆拭き等を一緒に行っている。また、入居者に味付けのアドバイスを頂いている。	主菜は法人で調理しているが、行事食や利用者の希望を取り入れ、柔軟に対応している。また、利用者の状態に応じた形態で食事を提供している。職員はさりげない介助で食事を楽しめるよう支援し、利用者の力量に応じて下膳や皿洗いを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定、毎日の食事・水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの栄養状態を把握している。一人ひとりの状態にあった飲み物・食事形態を検討し、糖尿病の方には低カロリー甘味料を使用し、嚥下困難な方にはソフト食を提供している。定期的に法人内の管理栄養士にアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを毎食後に実施している。また、その方に合った口腔ケア商品を使用し、気持ちよく生活して頂けるよう努めている。必ず口腔内のチェックを行い、健康状態の把握にも努めている。		

宮崎県高鍋町 グループホームメゾン・こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入を行い、個人の排泄パターンの把握を行っている。定時・随時トイレの声かけ誘導を行うことで、排泄の失敗やパット内排泄を減らす努力をしている。また、本人に合ったパット類の検討を行っている。	排せつチェック表を利用し、誘導している。日中は全利用者がトイレでの排せつを行い、日中のパットが外れた利用者もいる。利用者の排せつパターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品・食物繊維の多い食材を取り入れ、小まめに水分補給を行っている。ヨーグルトやオリゴ糖・便秘予防になる食材なども取り入れ、工夫している。便秘の方には、かかりつけ医に相談し、本人に合った下剤の内服を行っている。また、排泄チェックを行い、下剤投与は行っているが、座薬挿肛はほとんどない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は固定しているが、入浴する順番はその日の入居者の気分で変更している。また、固定しているがその他でも希望があれば、できるだけ入浴できるよう努力している。ゆっくりリラックスできるよう入浴時は民謡や懐かしい音楽を流して雰囲気作りを行っている。入浴拒否者には上手に誘導を行い、それでも拒否する時は、別の日・時間に入浴できるよう配慮している。	入浴日は決まっているが、希望や健康状態にあわせた入浴支援を行っている。家族の希望もあり、体力面が不安な利用者は週2回の入浴にするなど、希望に沿った支援を行っている。入浴時にはBGMやラジオを流し、利用者も歌いながら入浴するなど、楽しみながらの支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から1時間程度休息の時間を設けている。また、本人のその日の体調や希望に合わせて休息して頂いている。夜間気持ちよく安眠できるように、全員のパジャマ更衣を実施している。また、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテに挟み、全職員で把握している。また、食堂にも説明書を置き、いつでも確認できるようにしている。薬の注意事項・変更があった場合は申し送りノートに記載し、全職員が周知出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や昔得意としていたこと、習慣を大切に、それらを取り入れた支援を行っている。入居者の状態をみながら、縫物・畑での作業・家事等、一人ひとりの力を活かした役割作りを行っている。季節ごとの行事を計画し、気分転換の支援を行っている。		

宮崎県高鍋町 グループホームメゾン・こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそった外出ができるよう支援に努めている。入居者との会話の中から希望を聞き取り、予定を立てて外出できるよう、ご家族にも協力を得ている。外出・温泉・ドライブ・町の夏祭り・自宅・法事・買い物等の外出支援を行っている。また、散歩・外気浴は日頃より実施している。	天気の良い日には日光浴や庭を散歩するなどしている。個別にも温泉や買い物、地域の祭りに出掛けるなどの支援をしている。夫とドライブに出掛ける利用者もいるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが、外出先での支払い時は一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいれば対応している。携帯電話を持たれている方もおられ、いつでもかけられるように支援している。入居者への電話の取りつぎは個人情報保護に配慮し、対応している。入居者からの希望もあり、知人・家族へ年賀状を送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節の花や四季にそった飾り付けを行っている。当ホームは日当りの良い間取りになっており、ひなたぼっこをされる方もいる。BGMに懐メロやゆったりとした音楽を流し、穏やかな雰囲気作りを行っている。	ホームは日当たりの良い間取りで、共用空間には様々な種類のソファ、テーブルを配置し、利用者が思い思いの過ごし方ができるよう工夫している。加湿器や空調管理で湿度や温度を設定し、体調管理に努めている。台所は対面式キッチンで見守りやすく、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格・相性を把握して、共用の空間で楽しく過ごせるようにテーブルやソファの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族と相談し、馴染みの布団・枕・家具等を持参して頂いている。また、居室には家族との写真・思い出の写真を飾り、やすらぎのある空間作りに努めている。	居室は、位はいを持ち込んだり、孫の手紙を飾るなど、それぞれ住みやすいよう工夫している。徘徊のある利用者には、入居時より家庭に似かよった畳の部屋にするなど、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるように、障害物を置かないようにしている。また、一人ひとりの「できること」を活かし、歩行・車椅子の自力駆動練習を行っている。		